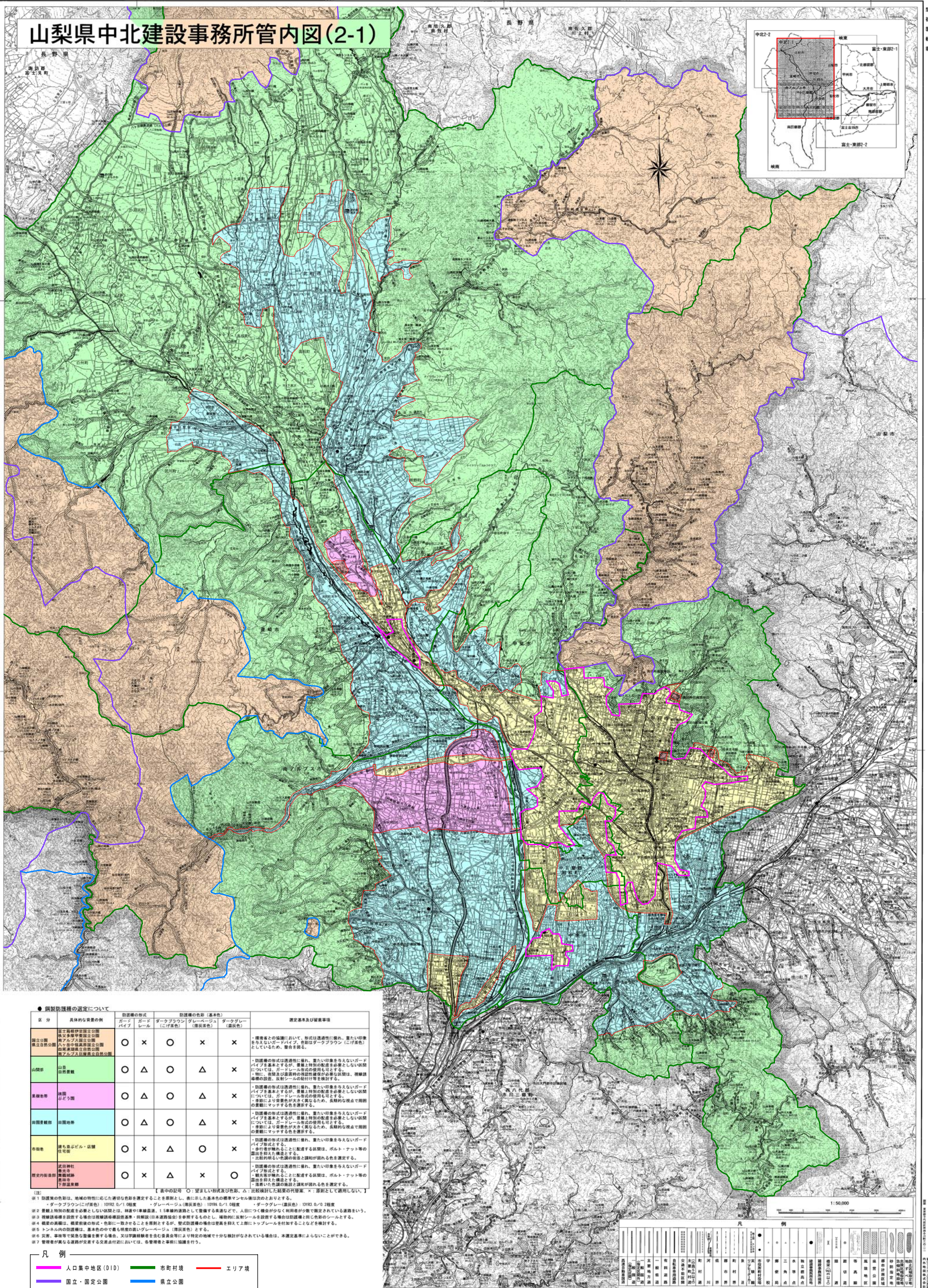


防護柵景観検討エリア区分図

中北建設事務所管内図2-1

山梨県中北建設事務所管内図(2-1)



● 鋼製防護柵の選定について

区分	具体的な資機材例	防護柵の形式			防護柵の色(基本色)			選定基準及び留意事項
		ガードパイプ	ガードレール	ダークブラウン(二色黄色)	ダークブルー(濃藍色)	ダークグレー(濃灰色)		
国立公園 県立自然公園 市町村立自然公園	国土交通省指定立寄園 秩父多摩甲斐国立公園 八ヶ岳中低高原国立公園 山梨県立自然公園 山梨県立自然公園	○	×	○	×	×	・環境との調和において、形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプ、色はダークブラウン(二色黄色)としているため、優先される。	
山部	山部自然公園	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別な配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・特に、夜間及び曇天時の視認性確保が必要な区間は、視覚的効果の向上、反射シールの付与等を行う。	
風景色帯	風景色帯	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別な配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・景観により黄褐色が主となるため、長期的な視点で周囲の景観にマッチする色を選定する。	
田園景観	田園地帯	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別な配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・景観により黄褐色が主となるため、長期的な視点で周囲の景観にマッチする色を選定する。	
市街地	市街地(店舗住宅地)	○	×	△	○	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とする。 ・観光客が頻りに通行する区間は、ポルト・ネット等の設置を推奨する。 ・景観にマッチする色を選定する。	
歴史的景観	歴史的景観(下宿街)	○	×	△	×	○	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とする。 ・観光客が頻りに通行する区間は、ポルト・ネット等の設置を推奨する。 ・景観にマッチする色を選定する。	

【注】表中の記号「○」：望ましい形式及び色、「△」：比較検討した結果の代替案、「×」：原則として適用しない。
 ※1 防護柵の色は、地域の特性に応じた適切な色を選定することを原則とし、表に示した基本色の標準マンセル値は次のとおりとする。
 ・ダークブラウン(二色黄色) 10YR 2/1 (黄褐色) ・ダークブルー(濃藍色) 10PB 5/2 (濃青) ・ダークグレー(濃灰色) 10YR 5/2 (濃青)
 ※2 景観上特別な配慮を必要とする区間は、緑帯・風景色帯、1.5車線道路として整備する区間などで、人目につく機会が少なく利用者が少ない区間をいう。
 ※3 視覚的効果の向上は視覚的効果向上基準・同解説(日本道路協会)を参照するものとし、補助的に反射シールを設置する場合は防護柵と同じ色のシールとする。
 ※4 橋梁の高欄は、橋梁の形式・色形に一致させることを原則とするが、形式防護柵の場合は変更を許して上部にトップレールを付加することなどを検討する。
 ※5 トンネル内の防護柵は、基本色の中で最も明度の高いブルーグレー(濃藍色)とする。
 ※6 田舎、景観等で異なる景観を有する場合は、又は防護柵を有する景観等により特定の地域で十分な検討がなされている場合は、実定基準によることが出来る。
 ※7 管理者が異なる道路が交差する区間においては、各管理者と事前に協議を行う。

凡例

- 人口集中地区(DID)
- 市町村境
- エリア境
- 国立・国定公園
- 県立公園

防護柵の形式	ガードパイプ	ガードレール	ダークブラウン(二色黄色)	ダークブルー(濃藍色)	ダークグレー(濃灰色)
防護柵の色	ダークブラウン(二色黄色)	ダークブルー(濃藍色)	ダークグレー(濃灰色)	黄褐色	濃藍色
景観区分	山部	風景色帯	田園景観	市街地	歴史的景観
その他	人口集中地区(DID)	市町村境	エリア境	国立・国定公園	県立公園

中北建設事務所管内図(甲府)

山梨県